

ドイツ人青年の5つの魅力

在ドイツ日本国大使館 増子 則義

在ドイツ日本国大使館では、地方自治体の要望に基づき、ドイツからのJETプログラム参加者の選考を行っています。多くのドイツ人青年たちが志願する反面で、招致枠が限られているために、2けたもの倍率の中で、人格・能力とも優れた人材を、断腸の思いで落とさなければならない中、選考が行われています。

また、毎年夏に渡日前オリエンテーションとともに、JETプログラム元参加者や近隣の日独交流団体などを招き、壮行会を行っていますが、彼らと接していると、本当に人格・能力ともに優れた青年がこのプログラムに参加していることを実感するのです。

ここでは、こうした経験を踏まえ、ドイツ人JETプログラム参加者の魅力について、ご紹介します。地方自治体の皆様におかれては、ぜひ、JETプログラムで、ドイツ人青年のご活用をお試しあれ！

ドイツ語ができるのは当然、
プラス、英語ができる！

ドイツ人青年をJETプログラムで採用する場合、「今は何と言っても英語…。ドイツ語だから、大変そう」と思うなかれ。実は、志願してくる青年たちの多くは、ドイツ語は当然ですが、英語もペラペラなのです。「この方は英語圏出身？」と思ってしまうほどの方も多いのです。

彼らにとって英語は外国語のはずなのですが、小さい頃から学校で触れていたり、英語圏への旅行や留学を積み重ねてきたりしており、私たち日本人の英語に対する意識よりも、ぐんと身近なも

のなのです。このことは、ドイツ人青年の付加価値の一つです。「ドイツ語・英語・日本語の能力も！」と、欲張ってご希望されるなら、ドイツ人青年をお薦めします。また、住民の方が、英語圏以外の方とも交流を深めることで、日本人の国際化の幅をいっそう広げることができます。

日本語能力が素晴らしい！

日本学科がある、そうでなくても日本語を教えているドイツの大学は少なくありません。大学に入りたての頃は「日本文化には興味があるけれど、日本語はまだ・・・」という彼らが、大学を卒業し、JETプログラム（特にCIR（国際交流員））に志願する段階に達すると、全くの変貌を遂げています。なんと、日本語能力が素晴らしいのです。また、日本語能力試験1級、2級という資格もさることながら、日本文化や日本のスポーツなどへの関心を通じた、資格だけでは表されない「日本愛」を感じるのです。

姉妹都市等交流には最適！

CIRを務めるドイツ人青年は、姉妹都市や友好都市の交流に絶大な力を発揮します。こうした姉妹都市等交流では、地方自治体職員の皆さんの相



学校の授業で活躍



講演会で活躍

互往訪の機会もありますし、関係団体の交流もあるでしょう。そうしたとき、細かい連絡調整だけでなく、通訳、翻訳、イベントの企画は、ドイツ人CIRにお任せあれ。ドイツ人の仕事に対する姿勢は総じて真面目なので、安心してお任せできます。

日本は明治期にドイツの制度を積極的に取り入れてきた面もあり、地方自治体間でも日独の縁が歴史的に深いことが少なくありません。姉妹都市や友好都市などで、ドイツとの間に何らかの縁がある地方自治体におかれては、ドイツ人CIRはお得な選択です。

帰国後も日独交流の架け橋になる！

JETプログラムを終えドイツに帰ってきたドイツ人青年は、中央政府や州政府の職員、大学教授、通訳、翻訳家、高校教員、日本と関係のある企業、さらには日本国大使館職員など、さまざまな分野で活躍しています。JETプログラムの経験は、参加者自身にとって生きた財産になるだけでなく、各分野での日独交流推進の原動力になっているのです。

スポーツも上り調子でハイレベル！

皆さんは、欧州債務危機の中で、ドイツが欧州における存在感を増していることは、既に報道などでご存じでしょう。私は、緑が豊富で、東西統一後まだまだ国土の開発が続いているドイツに滞在していると、ドイツの伸びしろや潜在力を大いに感じずにはられません。

スポーツでは、ドイツのサッカーの強さは有名です。本年5月に行われた欧州チャンピオンズ

リーグでは、並みいる強豪を倒して、ドイツチームどうしの決勝戦になりました。ドイツの強さの背景には、小さい頃から、各地域のスポーツ団体でハイレベルの指導が行われているという事情もあるようです。こうした裾野の広さが、ドイツの高い競技スポーツ力を生み出す理由の一つと言えましょう。もちろん、サッカーだけでなく、陸上、ホッケー、また日本由来の空手、合気道、柔道、剣道といったさまざまなスポーツが、各地のスポーツ団体で行われています。

スポーツによる交流をお考えでしたら、SEA（スポーツ国際交流員）としてドイツ人青年をお薦めします。

【JETプログラム参加者の話】

●ローバー・アンティエさん

(2005～2007年に、神奈川県にALTとして滞り)
(ALTとしてどんなことが印象に残っていますか)

・ALTとして高校2～3年生にドイツ語、高校1年生に英語の授業をしました。また、コンクールや大学入学試験の準備のお手伝いをしました。このほか、ドイツについての講演、小学校訪問、学校祭のお手伝い、遠足などを行いました。授業も楽しかったですが、演劇上演会や学校祭の手伝いなどのイベントも楽しかったです。

(今、この経験をどのように生かしていますか)

・ドイツ学術交流会 (DAAD) 講師や民間の語学学校で教鞭 (きょうべん) をとっています。JETプログラムの経験が自分のキャリア形成に大変役に立っています。

●ケッツォルド・ブリタさん

(2007～2011年に、茨城県守谷市にCIRとして滞り)
(日本のどのような点が好きなのですか)

・日本人が自然、四季、季節や地域の特産物を大事にする点、グループの中で控えめな点、お客さまへのおもてなしの心、自分だけでなく家族や友達を大事にしてくれることです。

(CIRとしてどのようなことが印象に残っていますか)

・日本では、特に姉妹都市交流として、コミュニケーション、代表団の世話、青少年交流プログラムの企画・実行、料理教室、ドイツ語講座、学校・幼稚園訪問、高齢者向けワークショップやPTA活動等での講演、映画上映会などを行いました。

(今、この経験をどのように生かしていますか)

・在ベルリンの日本報道機関でニュースアシスタントなどを経て、部屋の香りをつくる日系企業に勤めています。

●アネグレート・ヴィーラントさん

(2001～2004年に、沖縄県宮古島上野村にCIRとして滞り)
(日本のどのような点が好きなのですか)

・日本人の礼儀正しさ、誠意、サービスの良さ、お客さまへのおもてなしの心ですね。

(CIRとしてどのようなことが印象に残っていますか)

・日本人職員と協力して、イベントを実施しました。翻訳、通訳、月刊誌の執筆、小中学校訪問、語学講座、料理講座、ワイン講習会、クリスマスイベントなどを行いました。

(今、この経験をどのように生かしていますか)

・在ドイツ日本国大使館で広報文化を担当しています。